

2015 年度大分大学福祉社会科学研究所「第 8 回福祉社会科学講座」

「生活の包括的支援」とは ー政策と実践の往還をめざしてー

1 . はじめに

地域包括ケアシステムや生活困窮者自立支援法、社会福祉法人のあり方の見直しなど、平成 27 年度はさまざまな社会福祉の政策・制度の改編が目指されている。同時に、それらは制度・政策の枠組みにおいて働く、実践者の実践内容にも影響する。このような状況において、本セミナーは「実践の抱えている葛藤する現実」から出発し、それが政策と具体的にどのように「つながって」いるのか、また制度が望む実践のあり方を達成するには、今後どのような実践上のとりくみが求められるのかについて、政策の立場と実践の立場の双方から、社会福祉の対象とする「事象」を分析しようとするものである。具体的には、制度の狭間に落ちた事例の検討を通じて、実践の抱えている葛藤に密着しながら、政策が求める実践のあり方について論究しつつ、「政策と実践の融合した社会福祉のとりくみ」のあり方について、具体的な内容を提案することを目指す。

2 . セミナー（ワークショップ）内容

①ミクロレベルの実践の現実～事例紹介（担当：福祉社会科学研究所・衣笠一茂教授）

「制度の狭間に陥った、アルコール依存症の高齢者の事例について」

②グループワーク

この事例の課題は何か、援助者の取り組みのあり方について、制度はなぜ対応できなかったのか、についてグループディスカッションによる検討・報告を行う。

③政策論からみた実践の分析についての議論（担当：福祉社会科学研究所・垣田裕介准教授）

「政策が実践に求めるもの～生活困窮者自立支援法を例として」

④政策研究者、実践研究者、実践当事者とのディスカッション

問題はどこにあるのか、「政策と実践の乖離」はなぜ生まれるのか

⑤「葛藤する実践の向かう方向とは」

KJ 法を用いたブレインストーミングによる議論の集約

⑥クロージング・セッション

参加者からのフィードバック、政策、実践それぞれの立場からのコメント

3 . 開催日時・募集人数

日時：2015 年 8 月 1 日（土）13:30～17:30（13:00 受付開始）

場所：大分県労働福祉会館（ソレイユ）6 階つばき（大分県大分市中央町 4 丁目 2 番 5 号）

募集：**先着 60 名（6 人×10 グループ）**

（別添 FAX 用紙もしくは e-mail に裏面必要事項を記載し kyodaiss@oita-u.ac.jp（福祉社会科学研究所事務）までお申込みください。定員が埋まり次第締め切りとさせていただきますのでお早めにお申込ください。）

4 . 共催・後援団体

共催：大分県社会福祉介護研修センター、大分大学大学院福祉社会科学研究所同窓会「九峰会」

後援：（財）大分県社会福祉士会、大分県介護福祉士会、大分県介護支援専門員協会
大分県医療ソーシャルワーカー協会、大分県精神保健福祉士協会

第 8 回 福祉社会科学講座 受講申込書

送信先：大分大学大学院福祉社会科学研究科 FAX 097-554-7445

ふりがな	
参加者氏名	
性 別	男 . 女
ご 職 業	
<p>本講座を受講してみようと思った理由は何でしょうか。差し支えなければお書きください。</p>	